ワインへの支出

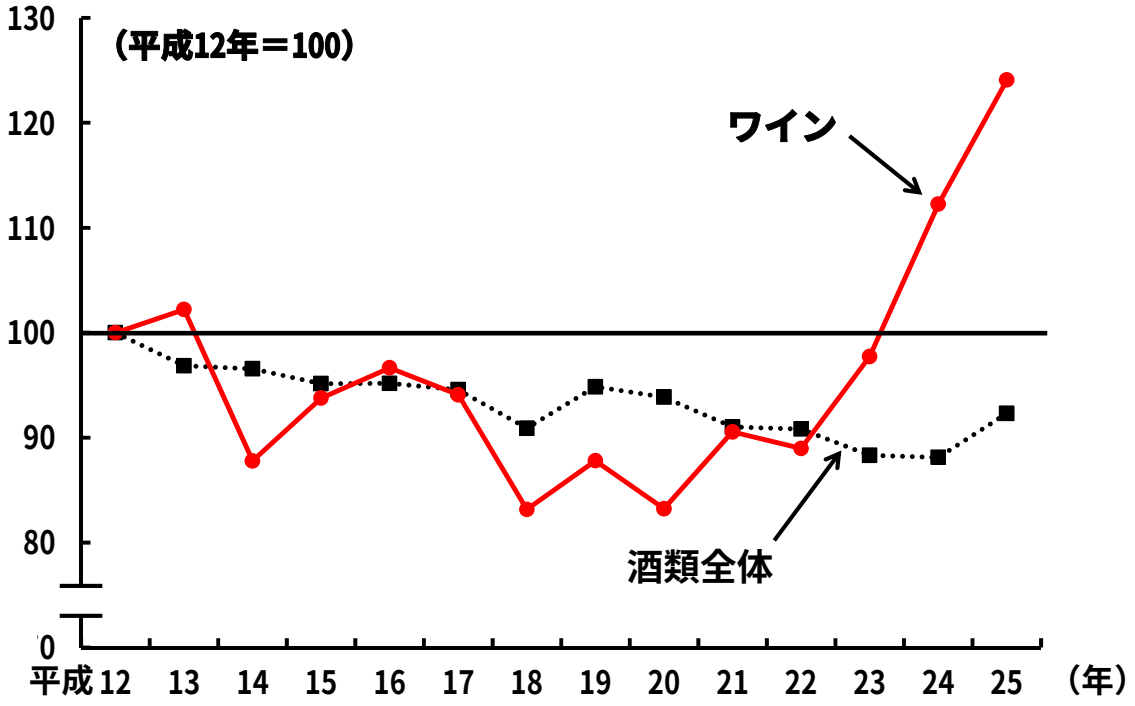
－家計調査（二人以上の世帯）結果より－

木々の葉も色づき、すっかり秋も深まってきました。毎年この時期になると、秋の味覚も出揃い、新ワインの解禁に胸を躍らせる人も多いのではないでしょうか。そこで、今回はワインへの支出について、家計調査（二人以上の世帯）の結果から見てみましょう。

近年増加傾向に転じたワインへの支出

まず初めに、ワインへの支出の推移を見てみましょう。ここでは、酒類全体及び酒類のうちのワインについて、物価の変動の影響を除いた支出金額（実質）を平成12年を100とした指数として表しています。平成12年以降、ワインへの支出は酒類全体への支出と同様に減少傾向にありましたが、平成23年以降では、ワインに含まれるポリフェノールなどの健康への効果が注目されていることもあって増加しており、近年、減少傾向が続く酒類全体とは異なる動きを示しています（図１）。

図１　ワイン※及び酒類全体への支出の実質金額指数の推移（平成 12～25 年）



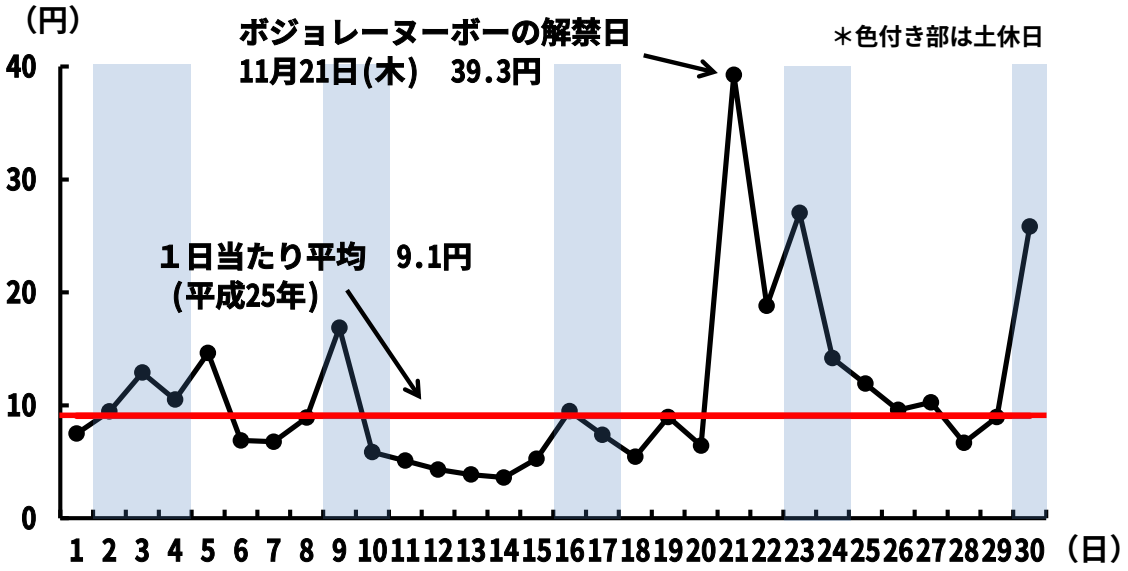
※平成 21 年以前は、「ぶどう酒」の支出金額を用いて作成

新ワインの解禁日に急増するワインへの支出

次に、ワインの日別の支出金額の動きを見てみますと、11月の第３木曜日のボジョレーヌーボー※の解禁に合わせて、支出金額が39.3円と年平均１日当たり（9.1円）に比べ４倍以上になっています（図２）。

※ボジョレーヌーボーとは、フランスのボジョレー地区において夏の終わりに収穫したぶどうを素に、その年のうちに仕上げた新ぶどう酒のことを言います。

図２　日別集計でみたワインへの支出金額（平成 25 年 11 月）

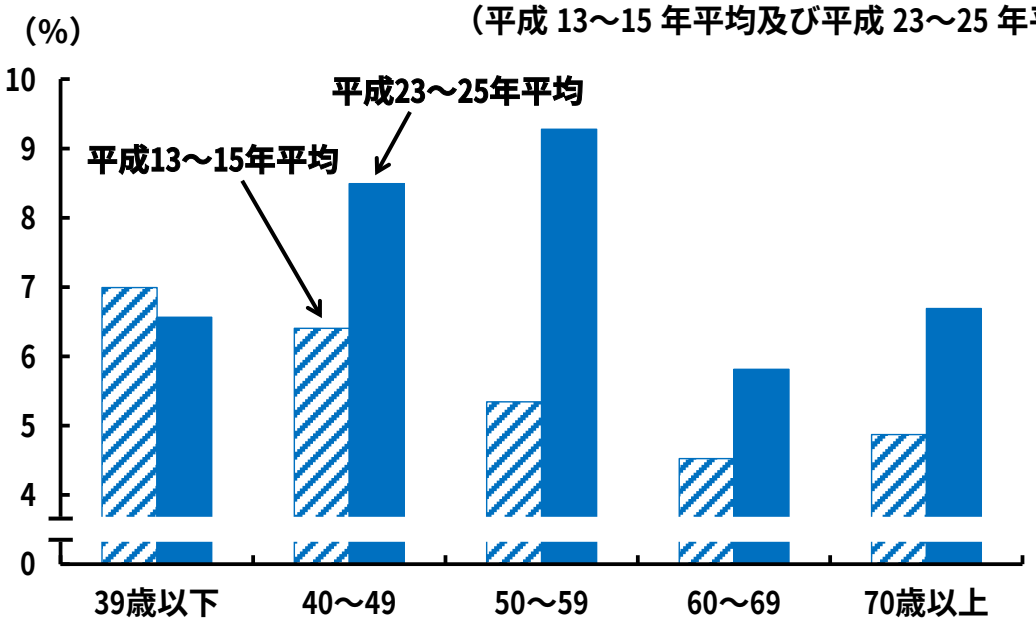


10 年前と比べて中高年層では酒類に占めるワインの割合が上昇

最後に、世帯主の年齢別でのワインへの支出金額について、酒類全体に占める割合を見てみますと、10年ほど前の平成13～15年平均では39歳以下が最も高くなっていましたが、平成23～25年平均では50歳代が最も高く、次いで40歳代となっており、この10年の間に、40歳代以上で割合が上昇したことが分かります（図３）。

なお、50歳代ではワインのほかに焼ちゅうへの支出割合も上昇していますが、一方で、清酒などへの支出割合が低下しています。

図３　世帯主の年齢階級別ワインの酒類全体に占める支出金額の割合
（平成 13～15 年平均及び平成 23～25 年平均）



「家計調査通信第 489 号（平成 26 年 11 月 15 日発行）」より